

科目ナンバリング：DEC-2-346-11/DIB-2-431-11/DLP-2-349-11

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目

政経学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「専門性」を身につける為の科目

■授業の目的及び到達目標

社会学とはどのような学問なのか。それはなにを問いの対象とし、他の学問とは異なるどのようなことを明らかにしてきたのか。この講義では、社会学がこれまで展開してきたさまざまな概念や命題について概説する。なお、以下の2点が到達目標となる。

1. 社会学の基本的な考え方や概念・方法・問いなどについて、その特徴を理解している。
2. 現代社会で起こっている事項について社会的に検討することが出来る。

■授業計画

- 1 イントロダクション
授業の進め方、受講時の注意、成績評価などについて説明を行う。
- 2 社会学の起源と基本的な考え方
社会学は、どのような歴史的状況の中で、どのようにして生まれたのか、また社会をどうとらえているのかという点について学ぶ。
- 3 社会と個人（1）
「人はなぜ自殺をしてしまうのか」（＝社会は個人にどのように影響を及ぼすのか）という点について、デュルケム『自殺論』から学ぶ。
- 4 社会と個人（2）
引き続き、デュルケムの様々な理論を参照し、「社会とは実在するのか？」という点について考える。
- 5 個人と社会（1）
「人々の行動が社会を形作っていくプロセスや仕組み」について、ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を中心に学習する。
- 6 個人と社会（2）
「なぜ、労働者は苦しい思いをしなければならないのか？」という問題について、マルクス『資本論』から考える。
- 7 相互作用（1）
「なぜ人々は“空気”を読んでしまうのか」という問題について、ゴフマンの理論から考える。
- 8 相互作用（2）
引き続き、ジンメルンの社会化の理論から第7回で示した問題から考える。
- 9 国家と権力（1）
「なぜ特定の人間は偉いのか？」という問題について、ウェーバーの“支配”の正当性に関する理論から考える。
- 10 国家と権力（2）
「偉い人やルールに、我々はなぜ無意識に“従って”しまうのか？」という問題について引き続きウェーバーの理論から考える。
- 11 支配と抵抗
我々の中を生きる我々は押さえつけられているだけではない。この回では「日常的な活動の中の抵抗」について考える。
- 12 逸脱
社会に対する抵抗はともすると犯罪として位置づけられることもある。この点について学習する。
- 13 社会調査法
社会学が、「いかにして社会を捉えてきたのか」という点について、社会調査に関する講義から学ぶ。
- 14 現代の社会学
近年の社会学がどのような問題を、どのように研究しているのかという点について解説する。
- 15 まとめ
これまでの授業内容を振り返る。

■授業の方法

授業は原則として講義形式で進める。各回の冒頭でレジュメを配布し、スライドと視聴覚資料を活用しながら解説を行う。各回の最後にはコメントペーパーを配布し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。

■予習・復習

予習：事前に電子版のレジュメを配信するので、授業前に目を通しておくこと。

復習：授業終了後、学習した理論を踏まえて、現代社会のどのような問題に適用できるのか考えること。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

WEB上で実施する小テスト（授業内容の理解度を測るものとする）30%、最終レポート課題（授業内容を踏まえて、現代社会の問題や現象について自分なりに考察するレポート）70%、

■教科書・参考書

土井文博・萩原修子・嵯峨一朗編、2007、『はじめて学ぶ社会学——思想家たちとの対話』ミネルヴァ書房
那須寿、1997、『クロニクル社会学——人と理論の魅力を語る』有斐閣